

## (4) 「児童・生徒が学校を離れて活動」

### 事業名 青少年ボランティア育成事業

実施団体 名称 社会福祉法人龍ヶ崎市社会福祉協議会

所在地 龍ヶ崎市馴柴町834-1

TEL 0297-62-5176

メール info@ryu-shakyo.jp

記入者 石塚 恭子

### 1 ねらい

ボランティア体験を通してボランティア活動への関心、福祉に対する理解を深め、地域におけるボランティアを育むことを目的に、ボランティアや関係機関との協働によるボランティアスクールを開催する。

- ・ジュニアボランティア（市内在住小学3年生～中学生）
- ・高校生ボランティア（市内在住・在学高校生）

### 2 事業内容（活動内容）

前年度のアンケートなど、参加者が興味のある体験事業を実施。

#### 令和3年度

- ・スポーツゴミ拾いゲーム（ジュニアボランティア・高校生ボランティア）  
→チームで協力しごみ拾いを実施する。
- ・世界で一つだけの絵手紙を作ろう（ジュニアボランティア）  
→ひとり暮らしの高齢者に向けて絵手紙を作成する。
- ・盲導犬ってなに？（高校生ボランティア）  
→盲導犬について講話を受け、誘導體験する。
- ・ふれ愛クリスマス（ジュニアボランティア・高校生ボランティア）  
→障がいのある子もない子も共に地域の仲間としてふれあうクリスマス会を実施する。  
クリスマスカードを作成し、参加者に贈った。

### 3 成果・効果

体験に参加することで、福祉に対する興味関心を持ち、更に様々なことに挑戦したいという意欲が感じられる。高校生は、ジュニアボランティアと共に活動することで、リーダーとしてチームをまとめようとする意識が感じられた。

### 4 今後の課題

例年は、保育施設や介護施設、障がい者通所施設などにも協力を依頼していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、訪問が難しくなった。そのため、規模を縮小し、参加人数を絞っての実施であったため、参加をお断りすることもあった。コロナ禍での実施でも、興味のある青少年には、広く参加してもらえる形態を検討したい。また、中学生の参加が少ないので、魅力ある体験を実施したい。

◆準備からふりかえりまで

- 連携団体に協力を打診。
- 小中学校に周知依頼。高校へはボランティア担当教諭に募集・取りまとめを依頼。
- 体験ごとに連携団体と詳細を詰める。大学では、教授に参加学生を募ってもらう。
- 各体験実施。体験ごとに振り返りの時間を設ける。
- 後日、参加者に感想文・アンケートを提出してもらう。
- 文集を作成。各学校及び公共施設、協力団体に配布。

小中学校校長会に出向いたり、担当教諭などと連絡を取り、協力を依頼する。

大学の授業内で作成物や進行の企画をしてもらう。

ボランティアスクール参加者へ、募金活動やその他事業がある度に連絡し参加を募る。



盲導犬って何？



スポーツごみ拾いゲーム



ふれ愛クリスマス



世界で一つだけの絵手紙を作ろう

◆連携団体やキーパーソン

流通経済大学、クラブドラゴンズ、ボランティア連絡協議会など

青少年ボランティア育成事業のイメージ

福祉への興味・関心  
未来のボランティアリーダー

